社会構造の変化に適応する複合カフェ

アクロス

原田健市社長

癒しの空間を提供

ストレス社会のシェルターとして、自宅以外でくつろげる空間を求める人が増えている。今や国内で約2000店が営業する複合カフェ。ネットカフェ・漫画喫茶とも呼ばれるこれら店舗の隆盛が、その事実を物語る。

アクロス（大阪府吹田市）は複合カフェ「コミックバスター」を、フランチャイズ・直営合わせて全国で140店舗以上運営する。なかでも大阪府下は29店に上り業界最大だ。原田健市社長は「自宅、職場に次ぐ居場所として心を癒す〝サードプレイス〟を提供することが当社の使命」と明言する。

普通のカフェや喫茶店と違って、複合カフェの利用者のほとんどは一人で来店する。この「第３の居場所」をもとめる客層の中核は40歳代、いわゆる団塊ジュニアの男性で、全体の約30％を占める。そのためコミックバスターでは彼らの嗜好に合わせて、旧作・名作漫画を揃えることに注力する。原田社長は「新作も大事だが、本屋にもないような、ここへ来ないと読めない入手困難なコミックを揃えたい」と他店との差別化を進める。また「癒しには丁寧な接客応対、心をこめたアテンドが基本」と、上質なコミュニケーションサービスの提供を強調する。

「日常生活の一部として使っていただける複合カフェ」がコンセプト。家族連れや女性、年配者も気軽に利用できる店舗作りに取り組む

時代への対応

昨今の時代の変化は複合カフェ利用者にも現れている。高齢化社会の進展で利用者の年齢層が上昇する一方、若年層は減少。スマートフォンなどモバイル機器の普及により、インターネットやＥメール利用の短時間利用者を奪われている。原田社長は「高齢化による時代の変化は否応ない。しかし、恩恵もあるはず」と状況を前向きに捉え、高齢者の来店を肯定し、多様化する嗜好に合わせたサービスを高めるといった変化に対応する戦略を描く。

そのためには〝ネットカフェ難民〟などのマイナスイメージを複合カフェ業界あげて払拭し、健全さをアピールすることが不可欠だ。原田社長は「明るさ、利用しやすさをしっかりと知らしめ、積極的なイメージアップを図らねばならない。依然として利用者が少ない女性への認知も重要」と課題を指摘する。

アクロスはこのほかにも、デイサービス介護施設の「樹楽」、ボウリング場、スポーツバー、カラオケなど多角的な事業展開を進めている。特に樹楽は一般の家屋・住居を利用して、24時間365日のデイサービスを実現した画期的な事業で、フランチャイズを含めて全国101か所で運営中だ。今後も新規オープンの予定が相次いでおり、次代の介護事業モデルとして期待が集まる。「デイサービスも、心地よい自分の居場所を提供するという思想は、複合カフェと通底している」と原田社長。「当社の事業で、人びとに元気を与えていきたい」と力強く語る。

【会社概要】
本　　社：大阪府吹田市江の木町17―１　☎06・6339・8400
設　　立：1995年６月
資 本 金：１億8000万円
事業内容：複合カフェ、ボウリング場、カラオケ、介護施設などの運営